

歴史ふれあいウォーキング 第5回

今井を歩こう!

10月23日(日)20名の参加で、今井地区文化財委員長の原勝美さんによる説明を聞きながら、堂村～上新田～弥生坂方面(約6キロ)を巡りました。
その後福祉ひろばで、婦人部の皆さん手作りの豚汁をいただきました。



No.326

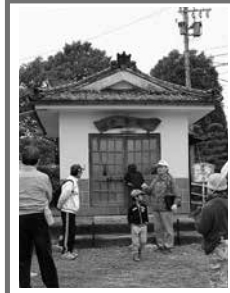
今井公民館
館報編集委員会
電話 59-2001
FAX 59-1004



2 堂村の十王堂、焰魔堂

5 洞穴 (ほらあな) ほらあな
かつて、鎖川から野口方面へ引水した用水路(暗渠部分)の跡、またはその工事に伴う残土処理用トンネルとも言われますが定かではありません。河岸段丘の中にあったトンネルが崖の崩壊により露出したものでしょう。
一昔前は、ろうそくの炎を頼りにコウモリの棲む洞窟探検をする冒険少年たちの格好の遊び場でした。現在は草木が生い茂り近づくことができませんが、親水公園西側の崖の途中に、ぽっかりと口を開け、歴史を今に伝えています。

1 續麻神社跡 (つづま) つづま
現在は、兼平神社地へ遷座されております續麻神社は、古くは近隣五ヶ村の総社といわれる格式をもち、主に機織り、裁縫、安産の神様です。跡地に空洞になりながらも近年まで立て残っていたご神木の榎は、とうとう倒れてしまいました。
福祉ひろばにて、“今井ふるさと歌留多の会”制作の紙芝居「續麻様」の披露があり、神社の由来をわかりやすく説明していただきました。



人は死ねば生前の行いを初七日から三回忌までに十王によって十回裁かれるという(仏教・道教の世界)。そのため生前に十王を祀れば死後の罪を軽減してもらえるという信仰があるそうです。堂村の十王堂も1616年の検地帳に堂を建てたという記載が残っています。お堂の中を覗くと確かに十人の王が所狭しと並んでいました。



4 弥生坂 (やよいざか) やよいざか
向う巾と言われる段丘を、昭和3年道路開削した折、土器が出土当初の見立てでは弥生式土器との事で、「弥生坂」と呼ばれるようになったそうです。昔は上新田山道と呼ばれ、入り

会い山である古見山の薪や刈りしきを運ぶ道でした。「今井民謡」に唄われているように桜の名所でもあったそうです。



3 上新田の三峰様と蚕玉様 (あまのたま) あまのたま
三峰権現は「火防、盗難除けの神」として広く信仰されてきました。上新田では現在も当屋が祠に洗米を供えお参りしているそうです。
蚕玉様は、養蚕の盛んな頃に部落全体が一緒になって石に刻まれた文字碑として祀りました。春は米粉で繭型の団子を、秋にはその年にとれた繭を供えたそうです。

第40回今井地区文化祭 『見つめよう、見つけよう郷士の魂』

11月5日(土)、6日(日)に改善センター、福祉ひろば、体育館を会場に開催され、展示発表・ステージ発表・ふれあい会食会・ふるさと歌留多大会・飲食物の出店など多様な催し物が行われました。

昨年、公民館の大規模改修で縮小された展示の部は、新装した館内に十分なスペースが確保され、多種多様な作品が揃いました。

今井小学校3年生から6年生までが俳句作りに挑戦し、その成果の展示もありました。



ステージ発表：スポーツボイス今井



出店：ひろばのお茶サークル



ステージ発表：今井小学校兼平太鼓

ステージ発表の部では、新たな出演者として、スポーツボイス大学院に参加する男性陣の歌声が披露され、大いに盛り上がりました。

『30回の指導を受けた最終回』今井小学校クラブ活動支援

本年5月からおこなわれてきた『松本市学校サポート(学校応援団)事業』が、10月20日の6回目をもって終了いたしました。活動内容は、「今井小学校の放課後活動として、公民館を通じた人脈をもとに、趣旨に賛同した地域住民が協力し、クラブ活動を指導する。そのことにより、児童の社会との関わりを学習する機会とする。」というものです。

今回、サッカーにおいては、地元のプロサッカーチーム松本山雅FCから小林陽介ホームタウン担当が指導に来てくれました。



これまで指導してきた島田哲男さんは、「授業なので、楽しいだけに終わらないように工夫してきた。もともと多くの住民に講師として参加して欲しい。」と話してくれました。

市民体育大会参加結果

10月9日(日)に開催された

相手をだますフェイントの動きや、相手をよく見て体を動かすことを準備運動として体をほぐした。結果は次のとおりです。

●ゲートボール3位決定戦 敗退

●市長杯争奪球技大会結果
11月6日(日)に開催されました。結果は次のとおりです。

★優勝 南耕地・公園西
☆第3位 北耕地・東耕地
・西耕地 7チーム参加



No.263

「そば打ち」

古田 陽子 (東耕地)

そば打ちを始めたきっかけは義母の勧めでした。五年程前に初めて打ったそばは美味しくて家族も喜んでくれました。「一人で上手に打ちたい。」そう思って友人を誘い教室に通いました。始めは何をやっているかわかりませんが、少しずつ



上手に打てるようになってきました。そんな中で自信をつけたいと、そば打ち三段位の試験に挑むことにしました。審査基準は厳しく、試験前日の練習でも失敗してしまいました。試験当日は緊張して手が震えていましたが、多くの人の「頑張つて！」という声を力に変えて、思っていた以上の成績で合格することができました。きつかけを与えてくれた義母、そして温かく見守ってくれた家族に感謝です。そば打ちを始めてから、姉妹都市の藤沢市での交流そば打ち、セイジ・オザワのそばパーティ、福祉施設での訪問そば打ち…知らない世界が広がり、たくさんの人と出会うことができました。これからはそば打ちの仲間と共に、地域に貢献できたら良いな…と思っています。